

■米国：EIA が 2012 年エネルギー需給見通しを発表

エネルギー情報局（EIA）は 2012 年 1 月 23 日、2035 年までのエネルギー需給見通しの概要を発表した。この見通しによると、2035 年には石炭火力の発電電力量比率は 2010 年の 45%から 39%に減少すると予想されており、昨年（2011 年）の見通し（43%）から大幅に減少している。EIA は、電力需要の伸び悩みと環境保護局（EPA）による環境規制導入により、石炭火力の廃止が進むと見込んでいる。石炭火力の比率が昨年の予想値から減少する一方で、ガス火力は昨年予想値 25%から 27%に、再生可能エネルギーは 14%から 16%に上方修正されており、低炭素電源の比率が高まる見通しだ。また、2035 年におけるエネルギー関連の CO2 排出量は約 58 億トン・CO2 となり、2005 年から 3.2%減少する見通しとなっている。エネルギー需給見通しの詳細版は 2012 年 4 月に発表される予定である。